

政務調査報告書

報告者 小田 寛之

■調査内容 「市町村議会議員特別セミナー」に参加

■場所 千葉県美浜区浜田1丁目1番
市町村職員中央研修所(市町村アカデミー)

■日時 平成25年1月15日～16日

■調査した議員 田中政司・大島恒則・辻浩一・小田寛之

■セミナーの内容

1月15日

- ①講演 「どうなる日本経済・地域経済」
講師 NTT データ経営研修所所長・千葉商科大学大学院名誉教授 斉藤精一郎氏
- ②講演 「これからの政治の行方」
講師 読売新聞調査研究本部研究員兼編集委員(政治部) 伊藤俊行氏

1月16日

- ③講演 「地方議会の役割と改革の行方」
講師 法政大学法学部教授・自治体議会改革フォーラム呼びかけ人代表 廣瀬克哉氏
- ④パネルディスカッション
「どこまですすんだ！議会改革」
コーディネーター
法政大学法学部教授・自治体議会改革フォーラム
呼びかけ人代表 廣瀬克哉氏
パネリスト
北海道福島町議会 溝部幸基氏
千葉県流山市議会 松野 豊氏
岐阜県高山市議会 中田清介氏

■報告及び感想

講演 「どうなる日本経済・地域経済」講師の斉藤精一郎氏から、現在及び今後の経済状況についてグラフを用いて詳しく説明があった。円高の影響により企業の製造部門が国外に移り、部品や最終組み立てまでも海外で行う現在では、日本のメーカーであっても日本を経由せず、日本に利益を生むこと難しく深刻な問題であるとのことであった。

地域経済では、自主的経済の確立を目指すのは重要であるが、現在、論点になっている道州制の規模は、人口規模が大きすぎであり、また、県単位では小さすぎるとのことであった。デンマークやスイス、また、シンガポールと同等規模の500万人くらいが同業者や産業毎に力を合わせやすいとの考えを述べられた。

講義を聴き感じたのは、国外から材料を輸入し日本で製造し価値を上げ再び輸出し外貨を稼ぐのは困難な時代で、各市として、自立した地域経済の確立には、海外からの観光客を誘致し外貨を稼ぐことが重要だと改めて感じた。

「これからの政治の行方」で伊藤俊行氏は、12月の衆院選では戦後で最低投票率となったのは、国民の政党離れが原因ではないかと話された。4年前、自民党から民主党へ政権交代がなされたが、国民が期待したような成果がなく、第3極といわれる複数の政党も一致した政策がなく、まさに乱立した状況で、国民の支持も得られなかった。今後も、今の選挙制度では右から左、左から右へと振り子のようにスイングすることも有り得るとのことであった。

昨今の政権運営はリーダーが次から次へと変わり、長期的に取り組む必要がある政策も実行できず、政治の停滞が国民の生活に悪い影響を用いていることから、経済再生を最優先として取り組む安倍政権には安定した運営になるよう期待をするところである。

「地方議会の役割と改革の行方」の廣瀬克哉氏からは、

①今回の、政策的合意形成機能を欠いた総選挙は、大勝した自民党の得票数が2009年よりも200万票以上少なく、また公明党も90万票減であり、「政策選択としての民主主義」の実感がわからない選挙で、政策への国民的求心力が見えてこないことを指摘された。

②地方議会は「開かれた議会」ではなく「見える議会」とすることが重要で単に扉を開くのではなく、市民の中へ入っていく広報が必要と話された。また、議会改革は市民には理解されにくく、選挙となれば、議会改革を熱心に取り組んだ議員より、駅前で毎朝朝立ちをする議員の方が評価がされやすいことから、今後は議会改革等を熱心に活動する議員が評価されるよう考えていく必要があると話された。嬉野市議会でも扉を開くだけでなく、具体的に「改革」が見えるよう広報に努めなければならないと思った。

パネルディスカッション「どこまですすんだ！議会改革」では、3人の地方議員がパネラーとして発言されたが、特段、進んでいる話はなかった。3議会中2議会が独立したホームページを開設しておられ、福島町では市外からのアクセスが多いとのことだった。流山市議会では、掲載にはスピードが必要との考えから一人の議員が独断で更新を許可されており、内容によっては偏った記事になり得ると不安も感じた。また、流山市議会で参考になったのが、ユーチューブ放送などのICTの取り組みは地元の大学と連携し大学生に協力してもらっている点、また、議会の予算要求は事務局だけではなく議員間でも協議をしていることだった。議会としての機能するためには予算が伴い、それを議会議員が協議し提案することは重要だと感じた。

今回、セミナーに参加して様々な講義を聴き、また、パネルディスカッションや交流会等で他議会の実例や状況などを知ることができ、今後の議員活動に大変参考になった。